

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん先端医療研究コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学研究科博士課程大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ゲノム医学・ビッグデータサイエンスの学問的基盤と高い臨床能力を備え、ゲノム創薬研究ならびに先端的ながんの臨床試験を実施できる、倫理観とリーダーシップを備えたフィジシャンサイエンティストたるがんゲノム医療の実践者を養成する。						
修了要件・履修方法	医療科学系専攻の主科目21単位以上に加え、以下の【履修科目等】に記載のすべての科目を副科目として履修し、単位を修得すること。履修内容審査および学位審査に合格すること。						
履修科目等	医療科学系専攻の主科目21単位以上に加え、以下のすべての科目を副科目として履修し、単位を修得すること。履修内容審査および学位審査に合格すること。 <医療科学系専攻主科目> 生命倫理学(1単位)、臨床疫学または基礎疫学(2単位)、医学統計学または基礎生物統計学Ⅰ・Ⅱ(2単位)、所属分野科目(特論・演習・実習)(計16単位) <副科目> 基礎腫瘍学(2単位)、先端ゲノム医学(1単位)、緩和医療学(2単位)、臨床腫瘍学(2単位)、化学療法学(2単位)、臨床研究方法論(1単位)						
がんに関する専門資格との連携	慶應義塾大学病院は「がんゲノム医療中核拠点病院」の指定を受けており、中核拠点病院における人材育成事業の対象として、履修者にエキスパートパネルへの出席等を義務付けることにより、ゲノム医療実践力を涵養する。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	主として1年次に、がんプロフェッショナルプランのために設置された「医療科学系専攻」の必修科目（生命倫理学・臨床疫学・医学統計学）に加え、副科目（基礎腫瘍学、先端ゲノム医学、緩和医療学、臨床腫瘍学、化学療法学、臨床研究方法論）の講義・実習により、がんゲノム医療実践の即戦力となる基盤知識を養う。2年次以降、本人の専門診療科に加え、血液内科・放射線治療科・緩和ケアセンターといったがん診療科をローテーションして、多職種連携によるがんゲノム医療の臨床能力を強化する。特に、臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーについて、適切な遺伝情報の取り扱いや患者や家族への対応を学ぶ。さらに、バイオマーカーならびに創薬標的探索・薬事申請・エビデンス評価・薬の市販後調査を含む承認販売後の観察型臨床疫学等の、臨床研究の方法論を習得する。これらを総合して各自臨床研究を推進し、履修内容審査・学位審査を経て、博士（医学）の学位を取得する。必要に応じてがんプロフェッショナルプラン連携施設での臨床・研究も行う。がんプロフェッショナルプラン第3期までは、急速に普及した遺伝子パネル検査に基づくがんゲノム医療への対応能力の涵養を教育の主眼としていたが、今期はこれに加え人工知能を活用し医療ビッグデータに基づくがん予防医療を担う能力を強化することを目指す。						
指導体制	金井弥栄（病理学教室・教授）、桜田洋一（石井・石橋記念講座拡張知能医学・教授）、西原広史（臨床研究推進センターゲノム医療ユニット・教授）、大谷壽一（薬剤学教室・教授）、浜本康夫（腫瘍センター副センター長・准教授）、宮冬樹（臨床遺伝学センター・准教授）等が講義・実習を担当し診療各科、腫瘍センター・臨床研究推進センター・臨床遺伝学センターの多職種の教員が総力を挙げて指導する。						
修了者の進路・キャリアパス	修了者の多くが「がん治療認定医」ならびに「がん薬物療法専門医」資格を取得することが想定される。修了者全員が日本専門医機構による基本19領域専門医資格のいずれかを取得する見込みである。第3期までの修了者は放射線治療専門医・緩和医療専門医・細胞診専門医・検診マンモグラフィー読影認定医等、がん診療の一定領域に特化したより専門性の高い資格も取得しており、がんゲノム医療の一線で診療・研究に従事すると期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	3	3	3	3	3	15
受入目標人数設定の考え方・根拠	がんプロフェッショナルプランのための「医療科学系専攻」には、3.9人/年の入学者がおり、年3人以上と判断して、受入れ目標人数を定めた。						